



映えるNIPPON 江戸、昭和 名所を描く

2021年
5月22日(土)
7月11日(日)
▼
前期 5月22日(土) ~ 6月13日(日)
後期 6月15日(火) ~ 7月11日(日)

府中市
美術館

Fuchu Art Museum





辻永《双湖台より見たるベンケ・パンケ》昭和7(1932)年 小杉放菴記念日光美術館蔵
*阿寒国立公園

新しい「名所」を伝える 国立公園を描く

昭和初期、日本各地の雄大な自然景観が国立公園として選ばれました。この新たな「名所」を広く伝えたのが、名だたる画家たちによる油彩画でした。この時に画家が描いた無名の地点が、今では展望スポットとして定着したものもあるように、画家たちはその場所の魅力を伝えるスポットを選び抜いて描いたのです。



三栖右嗣《小笠原父島から南島・母島を望む》昭和52(1977)年 小杉放菴記念日光美術館蔵
*小笠原国立公園



中澤弘光《上高地大正池》昭和7(1932)年 小杉放菴記念日光美術館蔵
*中部山岳国立公園



小杉未醒《日光》明治期 府中市美術館蔵

高橋由一《墨水桜花輝耀の景》
明治7(1874)年 府中市美術館蔵

美しく映える日本の景観を、 選び、描き、伝える。

時代をうつす 開化の景色

明治初頭、東京から長崎に電信線が架設されます。五姓田義松の描いた東海道の姿には、のんびりとした旧街道のすがたと、それとは対照的な電信柱の姿が描かれています。このように新しい時代を象徴するような景観も、名所を構成する要素の一つとして描かれるようになるのです。



渡辺文三郎《富士遠望》明治期 府中市美術館蔵



五姓田義松《旧東海道馬入茅ヶ崎間左富士山》明治期 府中市美術館蔵



五百城文哉《小金井の桜》明治期
府中市美術館蔵

雪をいただく富士、歴史に彩られた神社仏閣…

親しみやすさや懐かしさを感じさせるそれらの景色は、画家や写真家たちによって捉えられ、ポスターなどの複製メディアを通じて広められてきました。ときに既視感を抱かせる「名所風景」は、こうして私たちの意識に定着していったのかもしれません。

この展覧会では、日本各地の「名所風景」を捉えた幕末から昭和にかけての絵画や版画、印刷物を紹介します。時代の変化のなかで新たに登場した景物、時を超えて受け継がれた表現、だれもが心に浮かべる日本の景色。

映える日本を巡る旅を、どうぞお楽しみください。

新しい技法 受け継がれる構図

例えば日光・東照宮、あるいは隅田川の桜…こうした有名な景観は、古くから数多く描かれ、その場所らしさを伝えるための構図も共有されてきました。写真や油彩といった新しい技法がもたらされた明治以降も、そういった構図は受け継がれていきます。

高橋由一の《墨水桜花輝耀の景》で画面手前を大きく横切る桜の枝は、遠景と近景の極端な対比を取り入れた歌川広重の浮世絵版画に通じる構図となっています。



川瀬巴水《芝増上寺 東京二十景》大正14(1925)年 大田区立郷土博物館蔵



川瀬巴水《日本橋(夜明) 東海道風景選集》
昭和15(1940)年 大田区立郷土博物館蔵

江戸、明治、大正、昭和 四人の広重

江戸をはじめ各地の名所を描いた絵師・歌川広重。その名は名所を描く画家の代名詞として語り継がれています。

開化が進み変わりゆく東京の姿を、光と闇の対比の中に描き出した「明治の広重」小林清親。空からの視点でパノラミックに各地の名所を描き一世を風靡した「大正広重」こと吉田初三郎。そして抒情的な日本の名所を世界にも届けた「昭和の広重」川瀬巴水。

今回はこの四人の広重の作品が並びます。それぞれの表現をお楽しみください。



小林清親《駿河町雪》明治9-14(1876-81)年頃 府中市美術館蔵



小林清親《大川岸一之橋遠景》
明治13(1880)年 府中市美術館蔵

青空に映える富士

藁屋根の民家

こころの原風景を描く



向井潤吉《遅れる春の丘より》[長野県北安曇郡白馬村北城] 昭和61(1986)年 世田谷美術館蔵

こころのふるさと 富士と民家

富士山といえば、日本を代表する名所のなかの名所。この富士を繰り返し描いた画家に和田英作がいます。富士を見ると、なぜか晴れやかな気持ちになる。和田英作の描く富士には、そんな爽やかさが感じられます。

のどかな田園風景のなかにたたずむ藁屋根の民家。向井潤吉が描く民家の姿に私たちは懐かしさを覚え、心の原風景を見出します。

和田英作と向井潤吉。二人は富士と民家という、だれもが惹きつけられる風景を描き続けた画家なのです。

同時開催

〔常設展〕 絵のなかであそぶ／風景を描く
〔公開制作81〕 桃田ちひろ

次回の展覧会

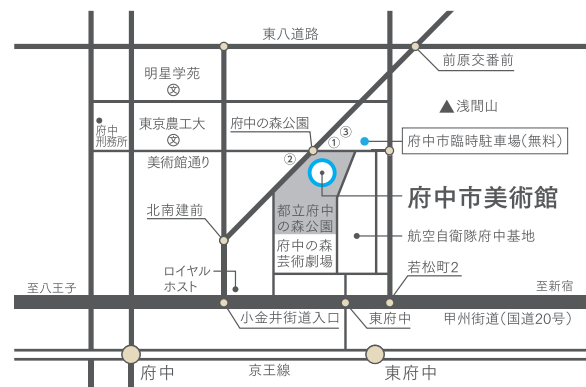
いっしょに遊ぼう！ ばれたんとむら田

7月24日(土)～9月5日(日)

詳しくは府中市美術館のホームページをご覧ください。

交通案内

- 京王線東府中駅北口から
・徒歩17分
・ちゅうバス府中駅行きで「府中市美術館」①下車すぐ
(8:05から30分間隔で運行、運賃100円)
- 京王線府中駅から
・ちゅうバス多摩町行きで「府中市美術館」②下車すぐ
(8:00から30分間隔で運行、運賃100円)
・京王バス武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)で「天神町二丁目」②下車すぐ
- JR中央線武蔵小金井駅南口から
・京王バス府中駅行き(一本木経由)で「一本木」③下車すぐ
- お車の場合は、美術館近くの 府中市臨時駐車場(無料、54台収容)をご利用ください。



和田英作《三保富士》昭和28(1953)年 小杉放庵記念日光美術館蔵

映えるNIPPON

江戸～昭和 名所を描く

2021年5月22日(土) ▶ 7月11日(日)

前期 5月22日(土)～6月13日(日) 後期 6月15日(火)～7月11日(日)

休館日 月曜日

開館時間 午前10時から午後5時(展示室入場は午後4時30分まで)

観覧料 一般700円(560円)、高校・大学生350円(280円)、小・中学生150円(120円)

* ()内は20名以上の団体料金。
* 未就学児および障害者手帳をお持ちの方は無料。
* 府中市内の小・中学生は「府中っ子学びのパスポート」提示で無料。
* 本展観覧料金で常設展もご覧いただけます。
* 最新の開館状況については、当館ウェブサイト、またはハローダイヤル等にてご確認ください。

主催 府中市美術館

府中市美術館
Fuchu Art Museum

〒183-0001 東京都府中市浅間町1-3
都立府中の森公園内
<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>
ハローダイヤル: 050-5541-8600